



きじむんのとぅ～ちゅいむにい～ 古文書入門編

第1回：古文書の文字

キーワード：古文書 くずし字 おもろさうし 御家流

はいさい！ きじむんやいびーん。

このコラムは、毎月、当館の沖縄資料の紹介のために発行しています。

僕は、非公認キャラクターのきじむん。よろしくね！

今年度は、琉球・沖縄の古文書入門をテーマにお届けします。ネット上でみんなで古文書を翻刻してみよう、というプロジェクトが、大勢の参加者を集めて話題になりました。そこで、古文書ってなあに？ 読んでみたいけれどよくわからない、という方のために琉球・沖縄の古文書の種類や内容、形や紙のことなどを一年かけて楽しくお届けします。不思議な秘密がいっぱいの古文書の世界をお楽しみください。

今月は、文字のおはなし。琉球・沖縄の古文書に使われる文字は、基本的には、万葉仮名を使います。「あ」という発音を書くときには、「安・阿・愛・亜・悪」などの漢字を当て字で使っています。漢字をくずし字(漢字の画数を省略した文字)で書くのが基本です。「安・阿・愛・亜・悪」は、どの漢字もすべて「あ」と読みます。漢字の意味は問いません。くずした文字で書くので、くずし字と呼ばれています。もちろん、漢字なども使います。

現代社会でパソコンで文字を入力するときは、明朝体を基本としていますよね。手書きしかなかった時代は、日本や琉球では、御家流(おいえりゅう)という書体が基本でした。これは、江戸時代以降、日本全国で標準として使われていた字体です。ほかにも中国皇帝へ手紙を書くときの文字フォントや、掛け軸を書くときの大きな文字書体など、当時の人たちは多くのフォントを手書きで書いていました。

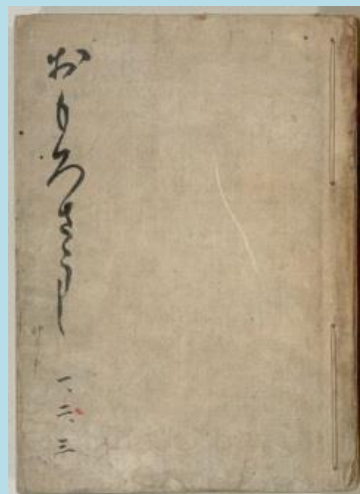
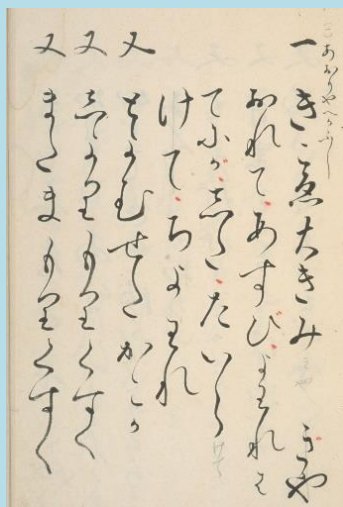
琉球の古文書で一番文字が美しいのは、なんといっても『おもろさうし』(琉球の祭祀の言葉を記録した本。1531年に1巻が成立)です。琉球王国の神に仕える聞得大君(きこえおおきみ)や神女達が使っていた祈りの言葉を記したものです。

琉球大学附属図書館では、何冊もの『おもろさうし』写本を持っているので、文字の美しさをぜひご覧ください。琉球大学附属図書館「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」から全ページご覧いただけます。このコラム左下のQRコードからご確認ください。

琉球方言は、母音がaiuの3つしかありません。そのため「あいうえお」は「あいういう」という発音になります。例えば「米(こめ)」は「くみ」と発音します。表記もその音の通りに書いたりします。また、濁点は書かないので、「馬場(ばば)」と書きたいときは「はは」と書きます。この法則を覚えておくと、ひらがなで書かれた古文書はたいてい読めるようになります。



今年度は、古文書の世界を楽しくお散歩してみましょう。(AS)



伊波普猷文庫 No.45(1)『おもろさうし』